

# Nihongo Network News

2001.3.6発行

No. 30

TNVN東京日本語ボランティア・ネットワークは、ボランティア日本語教室活動を行っている団体のネットワーク（連絡協議会）として、情報交換や活動の活性化を図ることを目的に、1993年12月に結成されました。TNVNの会員はそれぞれの地域で日本語教室活動を通じて、言葉のために日常生活に不自由を感じている外国人などを隣人として支援しています。

TNVN 東京日本語ボランティア・ネットワーク

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1メールボックスNo.4

東京ボランティア・市民活動センター気付 ☎03-3235-1171

## TOKYO地球市民フェスタ2001 にぎやかに開催!

TNVNも実行委員として参加しているTOKYO地球市民フェスタ2001実行委員会と東京国際交流財団の主催で、TOKYO地球市民フェスタ2001が開催されました。このイベントは、国際交流・協力、外国人支援の市民団体やNGO、東京都などが参加して、地球市民として外国人との共生を考えようという趣旨のもので、今回で三回目。

二十一世紀幕開けの地球市民フェスタは、2月3日(土)・4日(日)に東京国際フォーラムで開催されました。TNVNも501会議室のブースにコーナーを設けて参加。いつものことながら、こんなに数多くの団体が国の内外で活動をしていることを目の当たりにして感動しました。

TNVNのコーナーは「ボランティア日本語教室ガイド」やニュースレター、活動・入会案内などを置いたちょっと地味な展示でしたが、それを補うつもりで日本語ボランティア活動をPR。

他の参加団体の方々にもTNVNの活動を知っていただく「教室ガイド」を配布し、TNVNの活動について再認識していただく機会となりました。

4日午後からはミニステージでカンボジアの地雷排除に努力している団体のビデオ上映と紹介があり、地雷によって手足を失った人々の様子には胸がつかまりました。また、民族音楽のコンサートでは沖縄の音楽も演奏され、会場の人々も寒い東京から暖かい南の島へと心誘われるひとときでした。

日曜日でもあったこの日は午後になって多くの来場者でにぎわい、会場はさまざまな団体のパンフレットを両

手にかかえた人たちでいっぱい。会場に並んだ手作りの小物や民芸品を手にとりながらボランティア同士の交流も盛んで、日頃の苦勞を忘れて楽しいひとときを過ごしました。

私たちTNVNとしても他の参加団体の活動の様子に、これからも日本語を通して外国人の方々の生活のお手伝いをしたいと気持ちを新たにしたい有意義なイベントでした。



### 日本語ボランティア講習会、開催決定!

前号でご案内のように、TNVNではすでに日本語ボランティア活動をしている方々を対象として日本語ボランティア講習会を開催することになり

ました。講師・テーマ・申し込み方法など講習会の詳細については8ページに掲載していますので、そちらをご参照ください。

# データに見る ボランティア日本語教室 PART 2

## 「ボランティア日本語教室ガイド 東京 2000」 アンケートから

昨年7月にTNVNが発行した「ボランティア日本語教室ガイド 東京 2000」(以下「ガイド2000」)では、TNVN会員団体にだけでなく、都内全域のボランティア日本語教室に対してアンケート調査を実施。東京都23区と国立市・国分寺市・福生市・三鷹市・武蔵野市・武蔵村山市の6市を除く20市のボランティア日本語教室、137団体157教室のデータを得ることができました。

各日本語教室の活動情報は「ガイド 2000」に掲載されていますが、地域別のデータの集計がまとまりましたので、ここにその結果をご紹介します。

### アンケートの集計状況

◆回答数/団体数：137 教室数：157

### 教室の活動状況/曜日・時間別

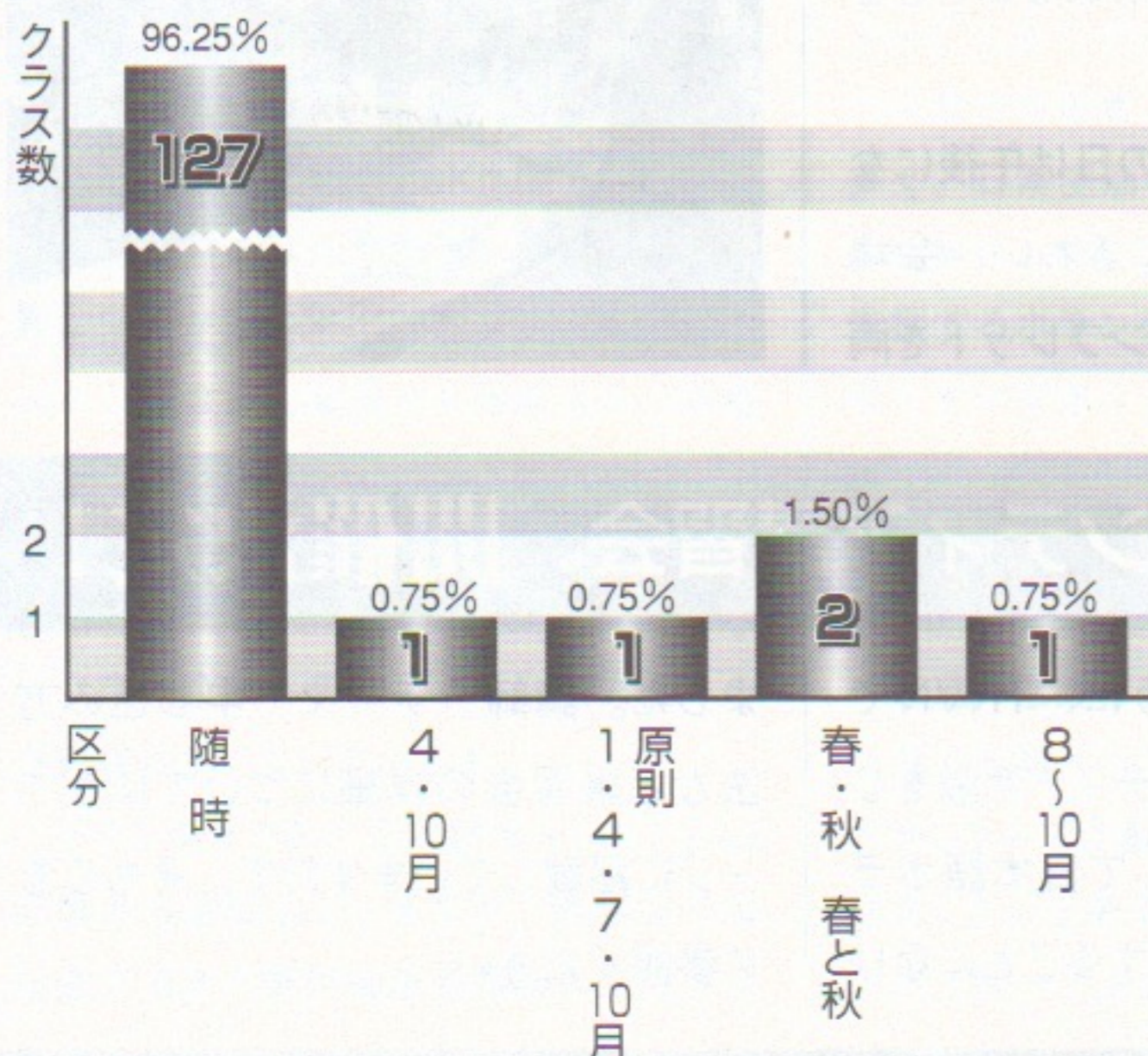
(クラス数)

	月	火	水	木	金	土	日	計
午前	16	20	21	20	22	9	3	111
午後	7	14	12	9	11	13	4	70
夜	6	18	28	18	12	9	2	93
計	29	52	61	47	45	31	9	274

\*回答のあった157教室で、274のクラスを開催していることになり、ひとつの教室が曜日・時間帯の異なる複数のクラスで学習の機会を提供していることがわかります。

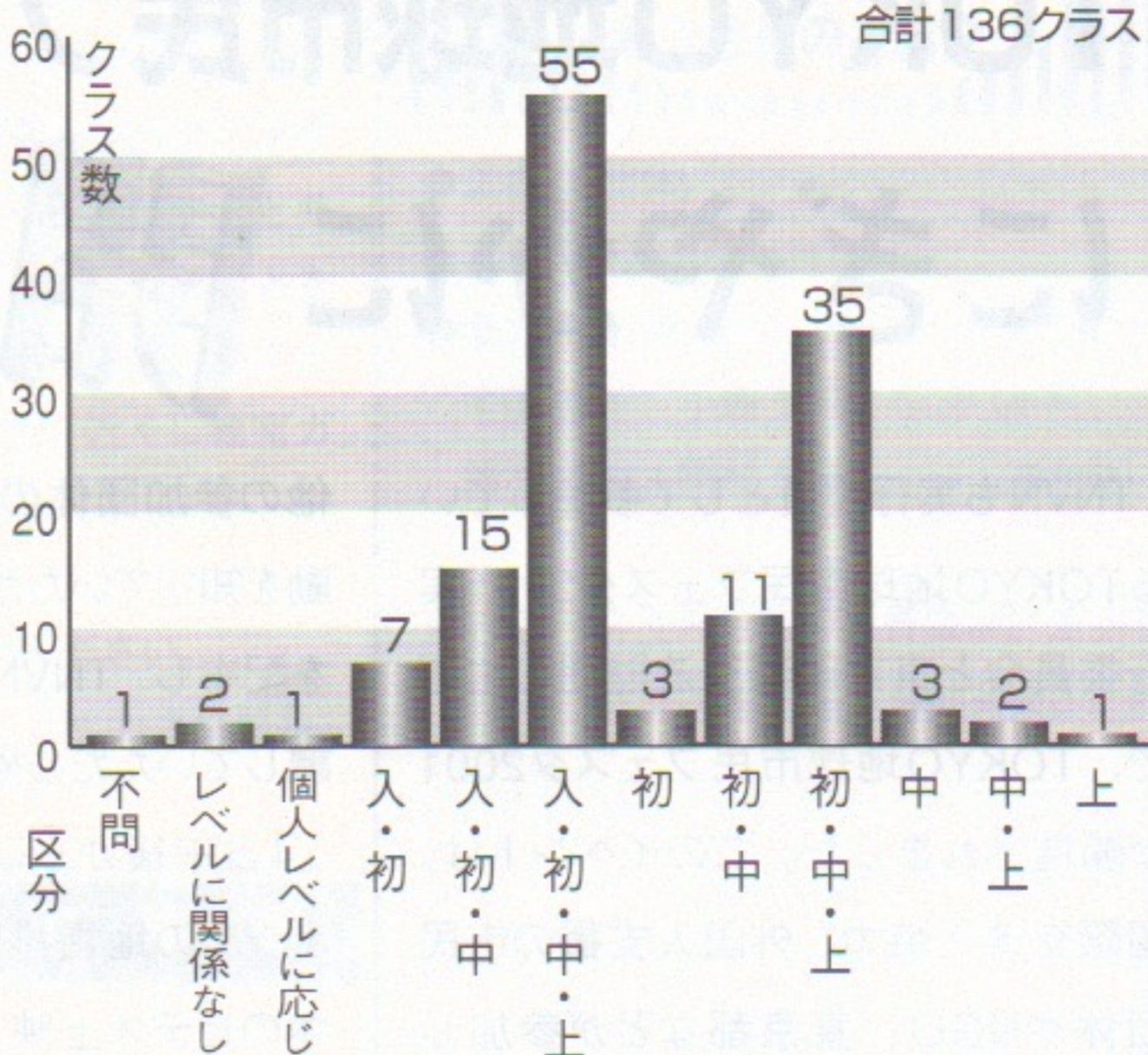
\*曜日別の集計では水曜日など週中が、また時間帯別では午前・夜・午後の順でクラスが多くなっています。

### 学習者の受入れ時期

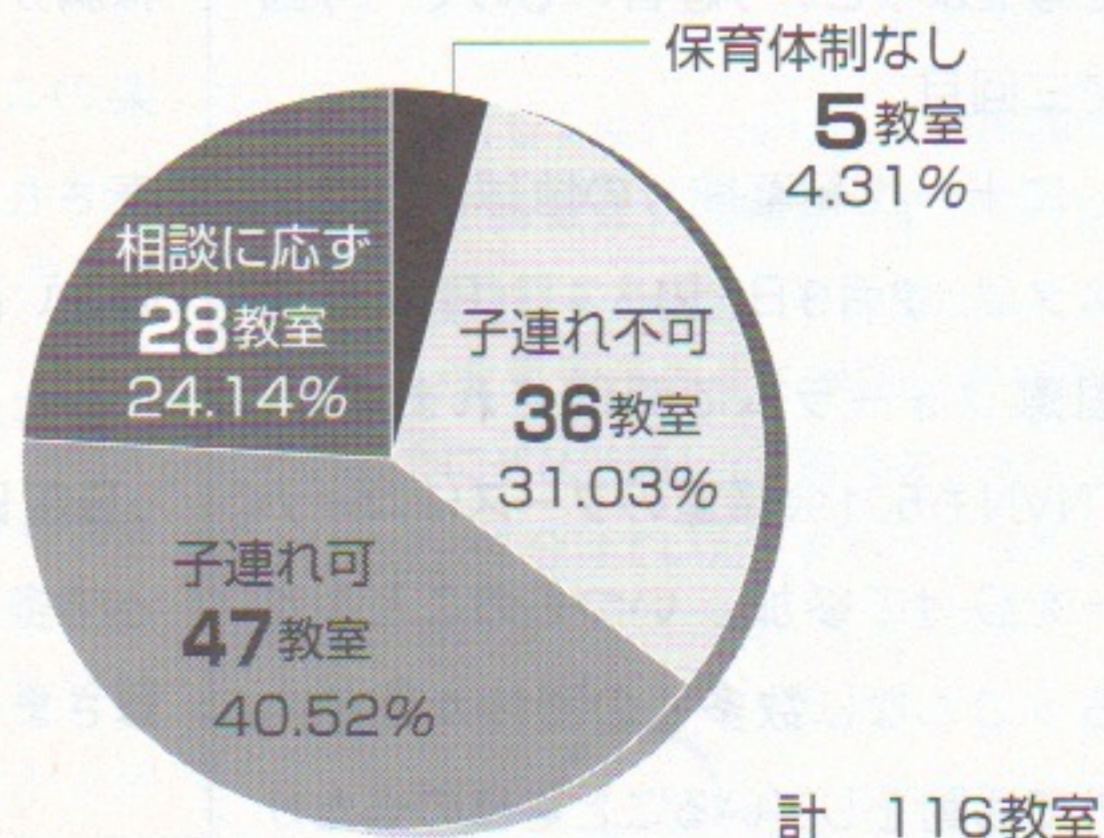


### 学習者の受入れレベル

合計136クラス




### 子連れ学習の受け入れ体制



\*学習者の受入れは随時というクラスがほとんどで、日本語のレベルも入門から上級まで幅広く受け入れていることがわかります。とくに、学習者のレベルによる制約はないクラスが大多数を占め、学習者のニーズに幅広く応えたいというボランティア日本語教室の意欲がうかがえます。

\*子ども連れでの学習も半数以上のクラスで受け入れています。保育体制の整ったクラスはまだ少ないのが現状のようです。



## にほんご アイデア ボックス

ボランティア日本語教室での学習は、日本語学校と違って学習者のニーズもさまざま。そのため既存のテキストや教授法通りにはいかないことも多く、学習者に合わせた工夫も必要です。

ここでは、日本語学習者を支援するときに、役立った教材、理解を早めたアイデア、上達を助けるコツなど、ボランティアの経験から生まれた工夫やアイデアをご提案します。

### ボランティアからの提案

## 学習支援のなかで 気づいたポイント

佐々木 俊郎 / 八王子にほんごの会 (八王子市)

私たちの団体は、学習者と会員が1対1でペアを組んで学習する方針です。私が今までに対応した相手は初心者から上級者までさまざまでしたが、比較的中級者が多く、国別では漢字圏の人が多く、読解中心の学習を希望する人が主でした。このことには限定せず、気づいたことを二三記します。

### 文字の学習

会話だけでできればよいという学習者がいます。しかし、日本に対する理解を深めるためにも、読み書きもできるようになってほしいと思います。

文字は普通、ひらがなおよびカタカナの練習から入りますが、ここところが不徹底であると、以後の学習能率に響きます。この練習はおもしろくはありませんが、自由に読み書きできるようにしておきたいものです。

非漢字圏の人たちにとって、漢字はまことにとっつきにくいものでしょう。しかし、漢字を理解し利用することで、日本語の豊かさに接することができるのですから、上手に指導したいものです。ある程度日本文化に馴染んだ後に、興味を持つか必要を感じたときから、それなりの覚悟をもって始めるのがよいと思います。

画数の多い複雑な漢字も、いくつかの基本的な部分品が組みこまれているか、あるいはそれらだけの組み合わせです。例えば「時」は日、土、寸の組み合わせ、「箱」は竹、木、目の組み合わせで

す。このような基本的部分品としては、口、土、日、月、目、木、人、大、小、女、工など、それほど多くはありません。これらの文字の筆順は、複雑な漢字のなかで用いられるときも変わりません。その上に筆順の大きな原則、すなわち上から下へ、左から右へを心得ていれば、漢字は難しいというイメージをぬぐい去ることができるでしょう。

### 音読のすすめ

文章を日本人と同じ音声で読むように求めることは、無理な注文である場合が多いものです。声を出すためには、咽喉、声帯、舌、歯、唇などの発声器官を有機的に動かすための脳神経の配線ができあがっていないとなりません。したがって、成人になってから母語にない音を発するのは困難です。アクセントやイントネーションまで含めて、日本人と同じように音読することは無理です。しかし、不自然ではあっても、それなりに滑らかに読むことは可能です。繰り返し声を出して読む練習をすればよいのです。文章の理解の程度と滑らかな音読との間には、思っている以上に相関があると私

は感じています。

### 文法の説明

文法について説明してほしいと求められることがあります。学校文法について満足に習ったことのない私たちの世代にとって、あまり歓迎すべき要求ではありません。ところが、実際に質問の内容を聞いてみると、それは私たちが考えているような学校文法的な説明ではなく、多くの場合読解における文意の明解な理解なのです。日本語能力試験の文法問題では、文章中に一語分の空欄があって、3ないし4語の選択肢のうちから適当な1語を選ぶ形式のものがあります。正解はこれと示されても理由がよくわからないので、説明してほしいという訳です。その語の辞書的な説明だけではなかなか納得してもらえません。その言葉の意味や使い方の説明のほかに、適切な使い方の例文を示すことでスッキリと分かってもらえる場合が多いのです。

### 漢字圏の学習者への対応

漢字を常用している人たちには、漢字に対して過信があるように思われます。日本語とでは、使い方にも違いがありますが、読み方はさらに違います。日本語における漢字を、母語のそれとは異なるところのあるものと認識して、本格的に取り組む気持が必要です。

日本文で使用する漢字の数が、常用漢字の制限もあって、一昔前よりもずいぶん少なくなっています。しかし、漢字圏の人にとっては漢字で書いてある方が分かりやすいことが多いのです。例えば「山吹色の大判小判が、まぶしくちらつきはじめました。もうこれっきり、とは言われたものの、そこをまげて織ってもらえれば」という文章で、眩、始、枉、貰を書き示せば、説明なしで理解してくれます。



## アットホームな雰囲気で

日本語ボランティアグループ「あおぞら」(港区)

石毛 達子

私達の日本語ボランティアグループ「あおぞら」は今年で4年目になります。

外国人の居住割合が多い港区は日本語の需要も多く、ここ港区女性センターでは毎日午前・午後とクラスがあり、更に区からの依頼を受けて金曜日の午後1時半から3時のクラスを立ち上げました。

ほとんどのメンバーが経験も無く、少しでも皆さんの日本での生活の手助けが出来ればいいと、意欲と手探りでここまでやってきました。生徒さんが集まらなかったり長続きしなかったりと試行錯誤の連続でしたが、だんだんと口コミで増え、お花見やお茶会などのイベントを通してお互いの交流も深まり、帰国時にはアットホームな雰囲気がよかったと喜んでいただけると「やってきてよかった」とボランティア冥利に尽きます。

また、生徒さんの努力で、ゼロからの出発だったのが日本語で国際電話をかけてこられるまでに上達した方もいらして、こちらにも本当に喜びの多い会だと実感して居ります。

本来は1対1の個人レッスンが主なのですが、会の活性化の為にも色々な組み合わせを考えていきたいと思っています。また、今年の課題としてボランティア側のスキルアップも図っていききたいと思っています。



## 「初めまして」と「お久しぶり」

みんなの日本語教室 (練馬区)

山森 美智子

「みんなの日本語教室」がスタートして4年が経ちます。練馬ボランティアセンターの会議



室をお借りして、一人の台湾女性の生徒から始まったこの教室も、20数名にもなる日があり教室が手狭に感じられるほどです。

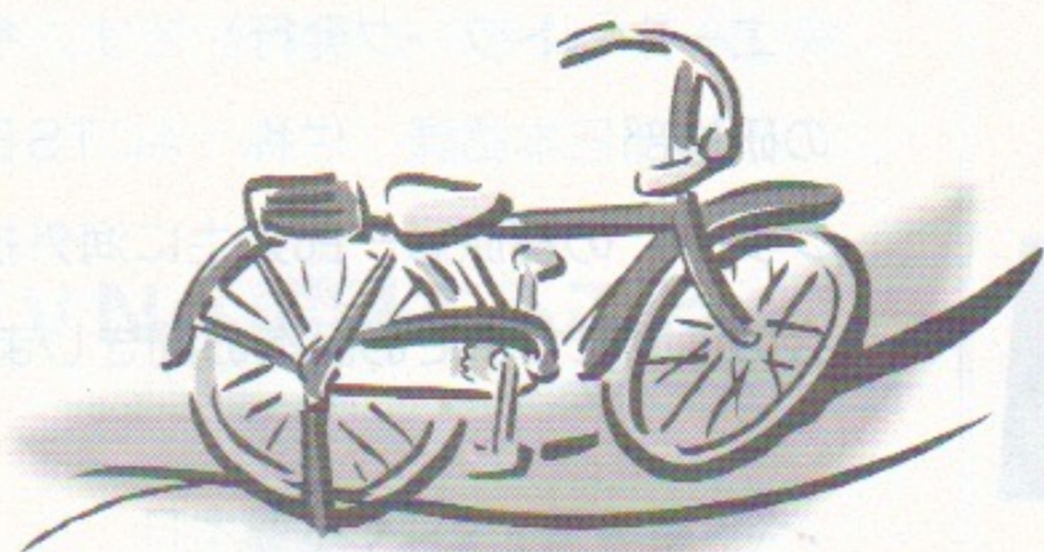
水曜日、午前10時から2時間、「生徒が満足し、しかも効果的な授業法を」と模索しながら歩んできました。11時半までは通常の授業、残りの30分はお茶を飲みながら、グループを離れてのフリートキングです。この時間は生徒もリラックスしているようです。さらに、毎月末には日本の行事や文化を紹介します。当番の講師がビデオ・絵・実物の品などを用いて説明します(七夕・百人一首・年賀状の書き方・茶道・書道など)が、自国と違う風習に熱心にメモをとる生徒もいます。既習語を使って分かりやすい文で説明する苦勞を味わいつつも、講師も楽しむひとときです。

今後、日本人と結婚した人達にも対応できるよう実践的なカリキュラムも考えています。仕事の都合や帰国などで一時休んでいた生徒の再入会もあり「お久しぶり」と声を交わすとても気さくな会ではないかと自負しています。また、教える・教えられるの垣根を越えて気軽に話し合える場になればと思っています。

っていた。授業は日本語だけでなく、日本の生活、文化、自分の人生相談にいたるまでだ。国がちがう友達、自分の国の文化についておしゃべりしながら日本のことをなっているのだ。いっしょに‘おとりさま’酉の市とよばれるおまつりに行ったのは、今でもわすれられない思い出。お茶をのみながら日本人の文化についてはなしたり、ビデオを見ながら日本のことをならううち、さまざまな国の人々はしたい友達になっていた。

今日も私はアルバイトがおわってから、よるおそくても白いたてものにむかうつもりだ。

もちろん“肝心なことは目には見えない”というlittle princeのはなしを知っているが、ボランティアの家族による国をこえた目には見えない愛というものがはっきりかんじることができるので。



王子駅からあるいて10分ほどのしずかな街。白くてきれいな北区立中央公園文化センターというこのたてものには、私の日本人家族がまっていた。

W.Hビザで日本に来たのは去年の10月。生まれてはじめての家族も友達も一人もないところ、そのうえことばも不自由な外国の生活は、何だか期待感より不安が多かった。いらいらしている時、韓国の日本人先生から日本語のボランティアについて聞いていたので、一枚の手紙をかいた。“よかったら 私もボランティアで日本語をおしえていただけますか”と。この一枚の手紙が私の日本人家族とであった契機だったのだ。

日本語ボランティアは、日本に来たばかり、そして外国人の私に、日本語ばかりでなくせいかつ of 安心感をプレゼントしてくれた。アルバイトがおわり、よるになって参加したボランティアの授業には“アンニョンハセヨ”といいながら、あたたかくむかえてくれる山本先生、韓国までわざわざ電話してくれた川田先生をはじめ、おそい時間まで自分のいそがしい時間をけずって教室に来てくださる先生たちと、それからこの先生達から日本語をおしえてほしいと思っているいろいろな国から来た友達がま

# 一人暮らしも喜びしつくないでしょよ

洪 ユンシン／韓国（日本語ともの会／北区）

自分の世界を広げたい、そんな自分本位のきっかけではじめた日本語ボランティアです。

お隣の国韓国や中国の方をはじめ、アジア・ヨーロッパ各国・中南米・インドと、思った以上に様々な国の方々と触れあう機会をもて、様々な文化を自分の生活の一部として感じる事ができ、これは世界中を旅するのに似ているのではないかと、など思ってしまう。どちらがボランティアかわかりませんね。

また、普段何気なく使っている母国語を、外側から眺めることで、改めて見えてくる

ものがあるような気がします。母国語を教えるということは、外国語を習うことと似ているのではないのでしょうか。空気のように思っていたものの特殊性、普段着がよそゆきに見えるような新鮮さを感じることが出来ます。

そして、やはりうれしいのは、言葉の違う人同士がお互いを表現し合うのに、日本語が必要とされているのを見ること。日本語を話すことで、日本での生活が楽しくなったと感じてくれること。

私も少しは必要とされているかな、などと思えてきます。

## 私とボランティア

池谷英津子（中央区）

## 海外技術者研修協会・AOTS日本語教育センター The Association for Overseas Technical Scholarship

〒120-8534 東京都足立区千住東1-30-1

TEL : 03-3888-8250

### 充実した教材とシステムで、 技術者の研修を実施



日本語教育の初級教科書としてよく使われている『新日本語の基礎』は、みなさんも手にしたことが多いのではないかと思います。これを作成したのは、経済産業省の外郭団体の海外技術者研修協会（スリーエーネットワーク発行）です。今回は、協会の研修部日本語課（併称：AOTS日本語教育センター）の春原憲一郎先生に海外技術者研修協会の活動についてお話をお聞きしました。

#### 海外技術者研修協会の概要

財団法人海外技術者研修協会（略称AOTS）は、昭和34（1959）年8月に日本で最初の民間による技術協力機関として通商産業省（現「経済産業省」）の認可を受け、設立されました。国際経済協力を推進して相互の経済発展及び友好関係の増進に寄与することを目的として、主に次のような事業を実施しています。

- (1) 開発途上国の技術者・管理者の日本での研修
- (2) 海外での技術者・管理者の研修
- (3) 研修センターの運営

海外技術研修生の受け入れは年間5,000名を超え、海外研修・海外巡回セミナー・海外通信教育

等の海外事業も合わせた研修生は年間12,000名になるそうです。これまでに研修を修了して帰国した研修生は約92,000名に達し、それぞれの母国の産業発展のために大いに尽力しています。また、帰国研修生による同窓会が組織され、今や同窓会相互の研修生交換という形で結実した友好のネットワークが世界を結ぶに至っています。

研修センターは、東京・横浜・関西(大阪市)・中部(豊田市)にあり、合計すると同時に1,000名もの研修生の宿泊が可能だそうです。

#### 一般研修の内容

研修事業としては、産業技術者支援の他、産業構造支援などがあります。産業技術者支援事業のうち、受入研修については技術研修と管理研修があります。管理研修はAOTSだけで行いますが、技術研修はAOTSで実施する一般研修と企業で実施する実地研修が一体となったものです。

この一般研修は、日本語学習や日本社会を理解するための導入教育です。日本語能力が必要とされる場合、最も標準的な6週間のコースに入ります。日本語の勉強の他に、日本の文化・社会・産業などの講義や見学などもカリキュラムに含まれています。

#### AOTSの日本語教育

1. 教材『新日本語の基礎』シリーズ  
『新日本語の基礎』は、6週間コースの研修生が



30単位×3時間で1冊を修了できるように作られています。周辺教材も完備していて、多様な学習者のニーズに応えられます。また、一般外国人向けの『みんなの日本語』はスリーエーネットワークがAOTSの協力を得て、『新日本語の基礎』のシラバスをもとに作成したものです。昨年には『新日本語の基礎』に続く中級者向けの『新日本語の中級』も刊行されています。

## 2. 研修センターの日本語教育システム

同センターの日本語学習者1,200~1,300人のうち、その3分の2は初級学習者です。学習者全員に言語学習適性試験をしてクラス分けをしているそうです。

各教室には、ビデオ・OHP・CDテープレコーダー・絵教材等が完備。自学自習用のマルチメディアシステムとして、コンピュータを利用して日本語を学ぶ自律学習システムや、日本語学習用ビデオを自由に検索して学習できるVODルームも常時開放されています。

また、各センターとも地域との連携を図り、近隣在住者・地方自治体・ボランティア教室・小中学校・大学・多言語学習グループ・国際交流団体などとホームステイや学校訪問プロジェクトなどの他、日本語教育関連の体験学習や発見学習のさまざまな試みを行っています。

## 取り組んでいるプロジェクト

### 1. 遠隔地研修

テレビ会議システムを使った双方向の中級遠隔

授業等の試みを1999年に開始し、また教師研修セミナーを東京とバンコク・クアラルンプールをつないで数回実施しました。今後、国内外を結んだ教育システムを本格的に稼働する予定です。

### 2. オンラインAOTS日本語修了試験

世界各地の日本語学習者がいつでも、どこからでも受けられるAOTS日本語修了試験を開発中です。インターネットでの受験が可能な日本語試験だそうです。

## TNVNへ要望すること

同協会として、日本語ボランティアに望みたいことは、自分たちの地域だけではなく、他団体・他ネットワーク・日本語学校・地方自治体・大学などの学校などとの連携。互いに関心を持ち、情報を収集し、交流をするといった、幅広い活動を希望しているとのことでした。

以上のご説明をお聞きした後、教室・VODルーム・食堂などを案内していただきました。いずれも良くできていて、充実した教育システムとともに、感心させられることばかりでした。高い人気を持つ初級用教科書を作れたのも、AOTSの優れた教育の成果だと思えます。

AOTSで活動している日本語ボランティアは、時々開催される無料の講習会に参加しています。立派な施設を使い、先生に直接ご指導をいただける日本語ボランティアが羨ましくなりました。



## 「正しい日本語」を求め理由

日本大学講師  
福田 知行

なぜ、私たちは「言葉の正しさ」を求めたのでしょうか。たとえば、「上」という漢字の書き順は『縦、横、横』なのか『横、縦、横』なのか、「おこなった」は「行った」なのか「行なった」なのか、「私」は「わたし」なのか「わたくし」なのか、「コンピューター」なのか「コンピュータ」なのか、「ご用意してください」なのか「ご用意なさってください」なのか等々、日本語を教えていればこうした疑問は数限りなく出てきます。

では、私たちはこうした疑問に出会ったらその答えを求めなければいけないのでしょうか。おそらく上記の疑問に答えられる日本人はあまりいないのではないのでしょうか。それでも私たちはコミュニケーションでも支障なく生活しているのです。つまり、日常生活では上記のような質問・疑問はそれほど大事なことはないということなのです。

上記のようなことが問題になってきたときは、普通の人ならば国語辞典を調べるとか、家族や知り合いで知っていそうな人に聞くとか、それでもわからなければ適当に書いたり話したりするのではないのでしょうか。間違えても、それを読んだり聞いたりした人もそれが間違いだということさえわからないかもしれないからです。

それが日本語ボランティアで大きな関心事になるのは、「日本語を教える」つまり「日本語の先生」になってしまうからです。間違ったことを教えた「先生」ではなくなってしまうので知っておきたいと思うわけです。たとえ

ば、助詞の「は」と「が」の意味や使い方の違いなどは、普通の日本人の日常生活ではけっして問題にならないことですが、日本語ボランティアをやりはじめると、急にその違いが気になるというのと同じことです。つまり、こうしたことは本来は「日本語教師」の問題なのですが、言葉の問題というのは専門家でなくても一家言ある人が多いので、グループ内でもいろいろ話題になったりするわけです。もちろん、学習者から質問を受けたときがいちばん困るわけですが、そういう場合でも、みなさんが自分自身を「先生」と考えるか「単なるボランティア」と考えるかによって違ってくると思います。「先生」ならばそれなりに調べて「正しい日本語」を教えればいいし、「単なるボランティア」ならばそれを『話題』にして会話をしたり、一人の『友人の意見』として答えておけばいいと思います。

私の考えでは、自分自身を「先生」と考える人でも「単なるボランティア」と考える人でも結局は同じで、正しい日本語を知っている「べきだ」とか学習者の質問に答え『られなくてはいけない』という考え方は間違っていると思います。つまり、「正しい日本語を知っている人」とか「学習者のどんな質問にも答えられる人」という条件のグループは別ですが、そういうグループはほんの少数ですし、そんな条件に合う人はほとんどいないからです。現在自分自身ができることで社会や他の人のためになることをする、それが『ボランティア活動』というものではないのでしょうか。

## 日本語ボランティア講習会を開催!

ニュースレター29号でお知らせした日本語ボランティア短期ブラッシュアップ講習会を開催します。今回は「日本語の教え方の秘訣」、「日本語の基礎Ⅰ・Ⅱ」、「新日本語の基礎Ⅰ・Ⅱ」、「みんなの日本語」、「ふれあいは国境を越えて」などの執筆者として広く活躍されている有馬俊子先生を講師にお迎えして開講。多数の方々の参加をお待ちしています。

## ◆日時

2001年3月16日(金)、23日(金)、30日(金)の3日間 午後2時30分～4時30分

## ◆会場

東京ボランティア市民活動センター会議室  
新宿区神楽河岸1-1セントラルプラザ10階

## ◆テーマ

初級から中級の学習者を対象にした教え方「んです体」、「可能形」、「受身」、「授受」、「使役」、「敬語(尊敬・謙譲)」を中心にその他初級から中級の間違えやすい要点等お話しいただきます。

※なお、「新日本語の基礎Ⅱ」をお持ちの方は当日持参ください。

## ◆参加費

2,000円(会員)  
3,000円(非会員)3日間通し

## ◆定員:40名

◆申込:氏名/住所/連絡先/(TEL/FAX/E-mail)/会員・非会員/所属団体名を記入の上、TNVN事務局まで郵送またはFAXでお申込みください。

〒162-0823

新宿区神楽河岸1-1東京ボランティア・市民活動センター メールボックスNO4  
FAX:03-3989-8045(本申込のみ)

## ◆主催

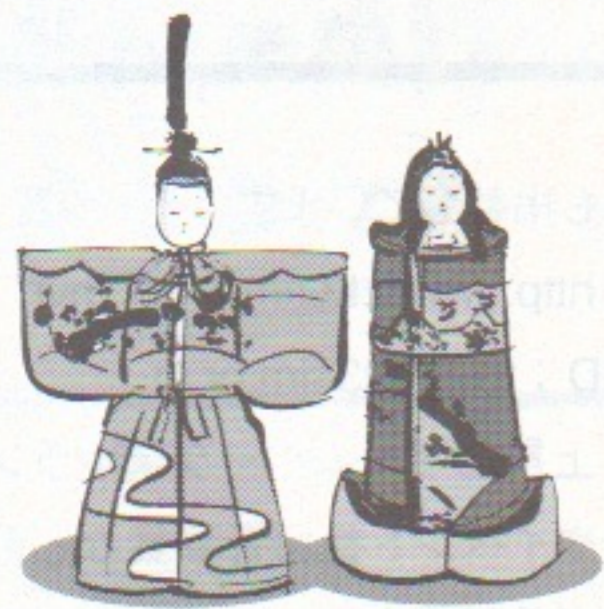
東京日本語ボランティア・ネットワーク



# 日本の常識

Common sense in Japan

## 第13回 雛祭り



厳しい寒さがゆるむ季節になると、あちこちの家庭やお店のウィンドウディスプレイなどに「雛人形」が見られるようになります。桃の花を飾って祝う「雛祭り」の習慣は、まさに春の訪れを感じさせるイベントでしょう。

### ◆桃の節句と雛祭り

雛祭りは、端午の節句が五月五日に男の子の成長を祝うのに対し、三月三日に「桃の節句」として女の子の成長や幸福を願って行われます。

雛祭りの起こりは、平安時代に宮中で三月の上巳の日（三月最初の巳の日）に行われた曲水の宴。これは盃

を水の流れに浮かべて身のけがれを祓うものです。古来中国ではこの日、川

で身を清め不浄を祓う習慣があり、これが平安時代に取り入れられました。

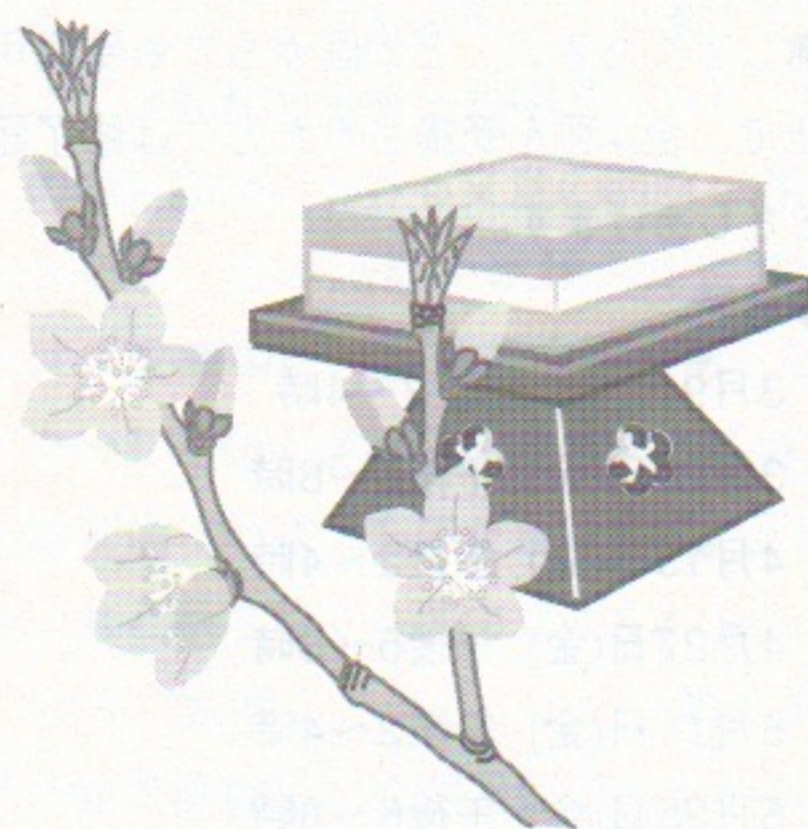
この行事が江戸時代になって三月三日に定着し、雛祭りとなったといわれています。雛祭りは当初女

の子の節句とは無関係でしたが、江戸中期ごろから女の子の節句の行事となり、その後、嫁ぐ娘に雛人形を持たせ、嫁入り後の初節句に飾る習慣が生まれました。

三月三日が女の子の節句として全国的に広まったのは比較的歴史が新しく、明治時代になってからです。

### ◆雛人形と雛祭り

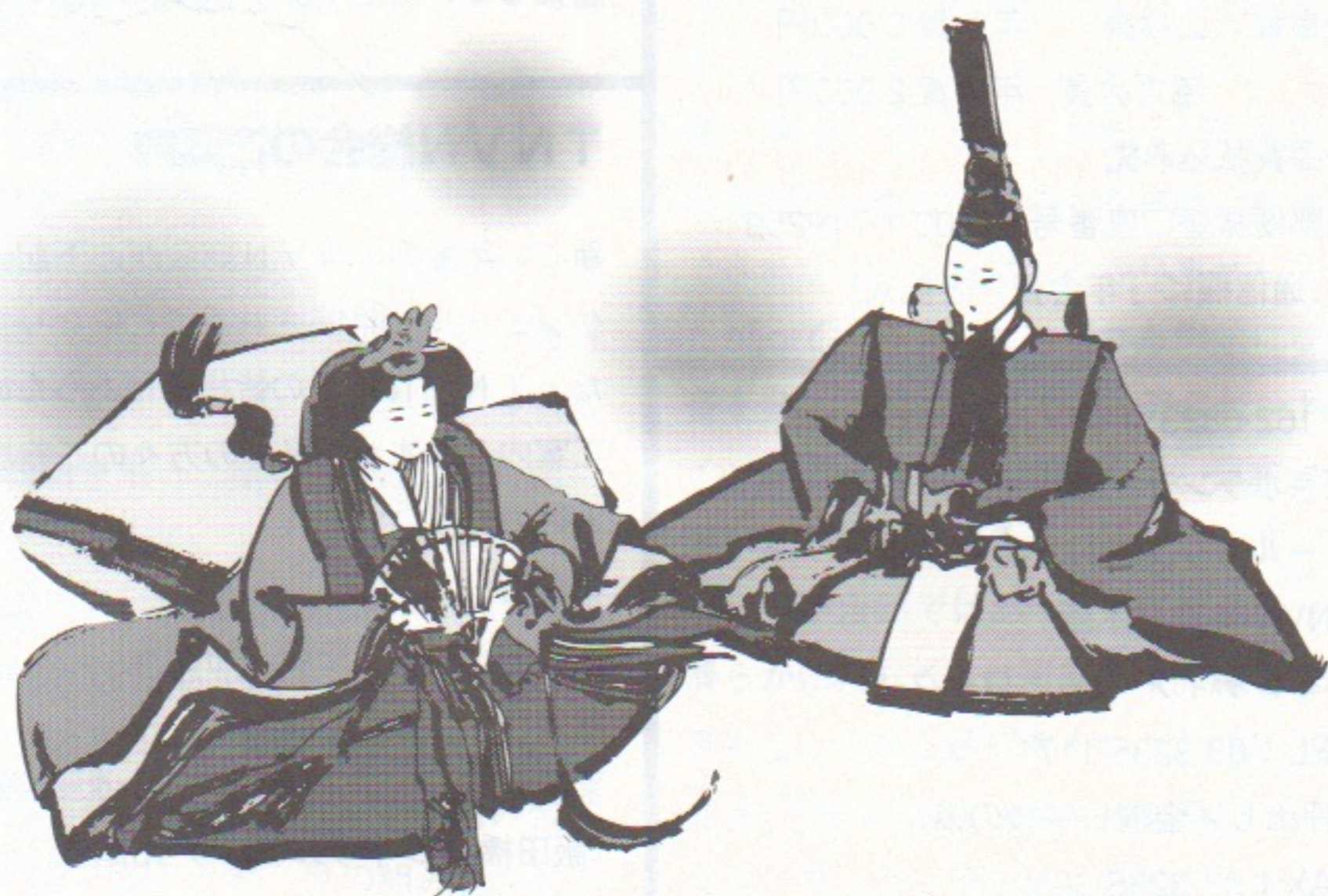
雛人形は古代、紙や草、木で作った簡素な人形（ひとがた）に自分の厄や災を移して川や海へ流した流し雛が、貴族子女の間で雛遊びとなり、現在の雛祭りに結びついたものです。



そのうち人形もだんだんと立派に華やかになるにつれ川に流すのをやめて、毎年飾り置くようになりました。

江戸時代、文化・文政の頃には民間でも最高の生活様式は宮中にあるとして、一般に赤いもうせんを敷いた5段か7段の段飾りが主で雛段の最上段に天皇・皇后を模した一對の「内裏びな」が並び、以下「右大臣・左大臣」「三人官女」「五人ばやし」などが各段を飾ります。また、桃の花や雛あられ、菱餅、白酒などを雛人形に供えて祝います。

近年では、住宅事情を反映してか雛人形も「段飾り」から省スペースの「親王飾り」が人気を得ているようです。



# NETWORK INFORMATION

## 日本語ボランティア入門講習会

これから日本語ボランティアを始めたい方のための「日本語ボランティア入門講習会」は、日本語ボランティアに役立つ基礎知識の講座です。これまでに日本語ボランティアの経験がないという方は、活動のオリエンテーションとしてぜひ受講してください。どの回からでも受講可能で、全4回を受講された方には修了証をさしあげます。

### ◆日時

- 3月9日(金) 午後2～4時
- 3月23日(金) 午後6～8時
- 4月13日(金) 午後2～4時
- 4月27日(金) 午後6～8時
- 5月11日(金) 午後2～4時
- 5月25日(金) 午後6～8時

### ◆テーマ

- (3月) 日本語ボランティアとは?
- (4月) 日本語再発見
- (5月) 学習者はどのような人々か?

### ◆会場

東京ボランティア・市民活動センター 会議室  
飯田橋 セントラルプラザ 10階  
(JR・地下鉄 飯田橋駅下車 徒歩1分)  
※都合によりフロアが変更になる場合には、掲示板等でご案内します。

### ◆参加費

1回 600円 (TNVN会員は300円)

### ◆参加申込み

直接、会場へおこしてください。

## TNVN宛て郵便物にはメール ボックスナンバーのご記入を!

TNVN事務局は、毎週金曜日午後2～7時まで、東京ボランティア・市民活動センターで活動をしています。

TNVNへのご連絡・お問い合わせ等は、なるべく郵便かFAXでお願いします。なお、TNVN宛ての郵便物・FAXには、右記のメールボックスナンバーのご記入をお願いいたします。

## TNVNの活動情報へ パソコンでアクセス!

インターネットのTNVN活動情報にアクセスして、日頃の活動にお役立てください。また、TNVNへの要望や意見などもお待ちしております。

### <TNVNホームページ>

TNVNの講習会など活動情報や教室ガイ

ドの情報も掲載しています。

◆URL: <http://www.t3.rim.or.jp/~tnvn/>

◆MAIL ID: [tnvn@t3.rim.or.jp](mailto:tnvn@t3.rim.or.jp)

※なお、上記のホームページにボランティア募集やイベント参加者募集などの情報掲載をご希望の方は、事務局までご連絡ください。

## TNVNへの入会を 希望する方は…

TNVNの会員として入会を希望される方は、まずTNVN事務局までTNVN活動・入会案内を請求してください。(活動・入会案内のみを希望する場合は送料として80円切手、ニュースレターと入会・活動案内の場合は90円切手を同封の上、郵便にてお申し込みください)

TNVNの会員は、日本語ボランティア活動をしている団体が正会員、日本語ボランティア活動に関心のある個人が協力会員となります。入会される場合は、申し込み用紙に必要事項を記入してTNVN事務局まで郵送またはFAXし、あわせて会費をお振り込みください。

会員の方には毎回TNVNニュースレター等を郵送するほか、TNVN主催の講習会等へ会員価格で参加できます。

◆会費/正会員 年会費 3,000円

協力会員 年会費 2,000円

### ◆会費払込み先

郵便振替口座番号 00100-1-719259  
(通信欄に『年会費』と記入)

〒162-0823 新宿区神楽河岸1-1  
東京ボランティア・市民活動センター 気付  
メールボックス No. 4

TNVN 東京日本語  
ボランティア・ネットワーク

TEL: 03-3235-1171

(呼出し/金曜日午後のみ)

FAX: 03-3235-0050

## 日本語ボランティア相談

日本語ボランティア相談窓口では、日本語ボランティアに関するご相談・ご質問にTNVNのベテランスタッフがおこたえします。お気軽にご利用ください。

◆日時/毎週金曜日 午後2～7時

### ◆会場

東京ボランティア・市民活動センター

◆電話でご確認の上、おこしてください。

TEL: 03-3235-1171 (呼出し)

## 連絡先の変更等は、 郵便かFAXで

正会員(団体)や協力会員(個人)の方で住所変更のあった場合、団体や代表の連絡先が変更になった場合は、TNVN事務局まで郵便やFAXでお知らせください。また、TNVNを退会される場合も書面で通知していただくようお願いいたします。

## TNVN総会のご案内

新しい年度のTNVN総会が、下記のスケジュールで開催されることになりました。TNVN会員の皆様にはあらためてご案内しますが、多くの方々のご参加をお待ちしています。

### ◆日時

4月14日(土) 午後1時から

### ◆会場

東京ボランティア・市民活動センター 会議室  
(飯田橋 セントラルプラザ 10階)

## 留学生交流ボランティア プログラム参加者募集

東京大学留学生センターでは、日本人と留学生の交流・支援の促進を目的として、1対1の組み合わせによる「留学生交流ボランティアプログラム」を実施しています。この活動に関心のある方は、下記までご連絡ください。

### ◆活動内容

留学生のニーズに合わせ、日本語を使って交流します。

回数や期間は、留学生と相談の上決めていただきます。

### ◆問い合わせ

東京大学留学生センター留学生相談室  
(平日10:00～18:00)  
TEL: 03-5841-2360  
FAX: 03-5805-7807  
E-mail: adv@ic.u-tokyo.ac.jp

## 小平市国際交流協会 「情報提供コーナー」

在住外国人のみなさん、日本で暮らして困ったことはありませんか。日本の生活で知りたいことや相談したいことがあったら、ボランティアがみなさんの相談にのります。

### ◆日時

毎週水曜日13:00～15:00

### ◆会場

小平市国際交流協会 情報ラウンジ

### ◆問い合わせ

小平市国際交流協会  
TEL: 042-342-7509



## MIA外国人による 日本語スピーチ大会

武蔵野市国際交流協会では第6回外国人による日本語スピーチ大会を開催。各国から8名の方々が、日本社会や日本人・出身国の話など自由なテーマで5分間のスピーチをします。大会終了後はホールロビーで交流会を予定しています。

### ◆日時

3月10日(土)14:00～15:30

### ◆会場

武蔵野スイングホール  
武蔵野市境2-14-1

### ◆参加費/無料

### ◆定員/180名(先着順)

当日、直接会場までおこしく下さい。

### ◆問い合わせ

武蔵野市国際交流協会  
TEL: 0422-36-4511

## 在日外国人のための 専門家相談

武蔵野市国際交流協会では、外国人の問題に詳しい専門家がアドバイスします。予約制ですので、まずご連絡の上おこしく下さい。

### ◆日時

毎月第4土曜日13:00～16:00

### ◆会場

スイングビル10階スカイルーム

### ◆費用/無料

### ◆相談員

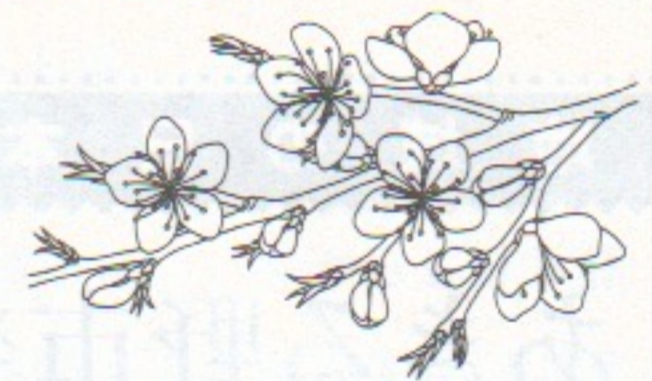
弁護士・精神科医・社会保険労務士・  
労働相談員・税理士

### ◆対応言語

英語・中国語・ハングル・タイ語・インドネシア語・ベンガル語・ベトナム語・アラビア語・タミル語・ヒンドゥー語・マレー語・スワヒリ語・スペイン語・ポルトガル語・フランス語・ドイツ語・ロシア語・日本語

### ◆問い合わせ

武蔵野市国際交流協会  
TEL: 0422-56-2922



## 港区国際交流協会 「外国人相談室」

外国人の方々が日頃かかえている問題や悩みをともに考え、お答えする窓口です。ご相談のプライバシー・秘密は厳守しますので、安心してご相談ください。

### ◆日時

毎週水曜日10:00～14:00

毎月第3水曜日18:00～20:00

### ◆会場

港区国際交流協会事務局  
(港区役所8階)

### ◆対応言語

英語・中国語・ハングル・スペイン語・フランス語

(英語以外の言語は要予約)

### ◆費用/無料

### ◆問い合わせ

港区国際交流協会  
TEL: 03-3578-3530

## 外国人無料相談

東京行政書士入管研究会と荒川区国際交流会では、外国人の在留期間・在留資格・帰化・資格外就労許可など、出入国・在留に関する相談に行政書士が対応しています。通訳はいませんので、必ず日本語のわかる人と同伴でおこしく下さい。

### ◆日時/毎月第4日曜日

### ◆会場/日暮里ひろば館2階会議室

### ◆問い合わせ/荒川区国際交流会

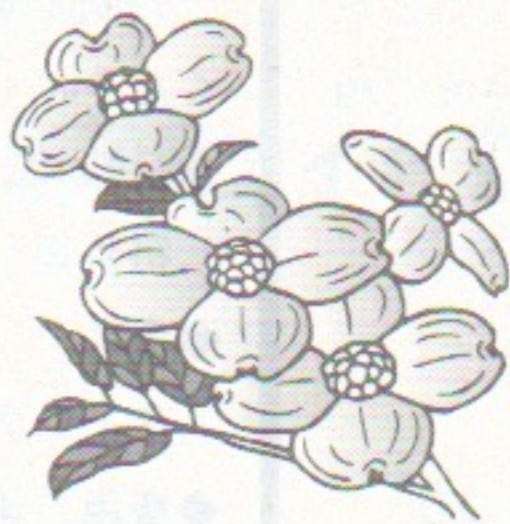
TEL: 03-3802-3111(内線2524)

# BULLETIN BOARD

昨年度からとりかかっていた「ボランティア日本語教室ガイド東京」が会員の皆様の協力を得て昨年6月に完成。関係団体への送付作業は現在も続いています。2月3・4日には「地球市民フェスタ」が東京国際フォーラムで開催され、TNVNも参加しました。3月には日本語教授法の講習会が予定されています。また、TNVNで要請を受けた出前講習会も今年度は4件ありました。

昨年末にはふたつの新聞社からの取材があり、今年に入って他の新聞でも日本語支援に関する記事をいくつか目にしました。今年はボランティア国際年ということで、ボランティア活動に目が向けられているのでしょう。

「日本語教室ガイド」は国際交流に関



係する団体に配布しています。2月の地球市民フェスタに参加した団体はなんらかの形で外国の人々と関わっているので、教室ガイドを配布し、活動に生かせると喜ばれました。教室

ガイドの送付先は各地の国際交流協会・自治体の窓口・社会福祉協会・図書館等ですが、十分に活用されているかちょっと気になります。「日本で暮らす外国人が言葉の上での不自由をなくし、日本人と共生できる環境作り」の一助になることを目的に作成した教室ガイドです。多くの人の利用を願っています。近くに教室ガイドを必要とする場所がありましたら、送料(¥310)を負担していただければお送りしますので、お知らせください。

甲斐 武子 (TNVN事務局長)

SPECIAL THANKS

◆海外技術者研修協会様  
AOTS日本語教育センター様  
快く取材に応じていただきました。

メディアに見る TNVN情報

朝日新聞2000年12月24日朝刊  
ボランティア日本語教室の活動事例の紹介

WELCOME!  
新入会員のご紹介

- ◆正会員(団体)  
みんなの日本語(練馬区)
- ◆協力会員(個人)  
平田 純一、小畑 光幸、宮部 靖子、  
蓮池 公治、岡村 光浩 (敬称略)

※2001年2月末現在の会員数は、正会員72団体、協力会員92名、賛助会員6です。

地域の日本語ボランティア事情

あきる野市発

当市は平成5年9月に秋川市と五日市町が合併して誕生。本年1月1日現在、総人口78,997人のうち外国人登録者が511人、人口比で0.065%です。

都心から西へ40~50Km圏で、南に多摩川の支流の秋川が流れ、北部をなだらかな丘陵が囲む平坦部と、西の奥多摩の山々に連なる山間部から形成され、緑豊かな郊外都市として発展途上です。市の産業は、農業・工業・商業・建設・観光業・林業・漁業などですが、大規模なものはなく、市内企業への就労より都内方面への通勤者が多くなっています。

ボランティアの「日本語サークル」は'93年頃から活動していますが、昨年より福祉法人あきる野市福祉協議会の支援する

ボランティア活動のひとつとなり、以前より活発に活動しています。現在、当サークルに入会している会員は約40名で、その半数が学習者。なかでも家庭の主婦が多く、日常生活のなかで言葉や読み書きの必要性を感じて学習する方が多数です。支援するボランティアも主婦や教職経験者などが安定した活動をしています。学生や若い人たちの活動が継続しにくいのは残念ですが、当地の交通事情があまりよくないことも影響していると思われます。

毎週の活動は日本語学習のほかに文化交流や各種イベントなどもあり、地域のボランティア活動として楽しみながら広く交流したいと考えています。

(川上舜一/あきる野市日本語サークル)

編集後記

●TNVNとしては久しぶりに「日本語ボランティア講習会」を開催します。今回は、「新日本語の基礎」の執筆者として人気の高い有馬俊子先生を講師にお迎え。この機会にぜひ受講して、有馬先生のバイタリティーを分けていただきたいと思います。



発行人/中田 紀子  
編集人/前田 恭子  
レイアウト/鶴田 環恵